

【資料添付】

アナフィラキシーガイドライン2014



アナフィラキシーガイドライン2022



アナフィラキシーガイドライン2014

総論

1 アナフィラキシーの定義と診断基準

アナフィラキシーとは、「アレルゲン等の侵入により、複数臓器に全身性にアレルギー症状が惹起され、生命に危機を与え得る過敏反応」をいう。「アナフィラキシーに血圧低下や意識障害を伴う場合」を、アナフィラキシーショックという。

■ 診断基準

▶ 以下の3項目のうちいずれかに該当すればアナフィラキシーと診断する。

1. 皮膚症状(全身の発疹、腫疹または紅潮)、または粘膜症状(口唇・舌・口蓋垂の腫脹など)のいずれかが存在し、急速に(数分~数時間以内)発現する症状で、かつ下記a, bの少なくとも1つを伴う。



さらに、少なくとも右の1つを伴う

皮膚・粘膜症状



a. 呼吸器症状
(呼吸困難、気道狭窄、喘鳴、低酸素血症)



b. 循環器症状
(血圧低下、意識障害)

2. 一般的にアレルゲンとなりうるものへの曝露の後、急速に(数分~数時間以内)発現する以下の症状のうち、2つ以上を伴う。



a. 皮膚・粘膜症状
(全身の発疹、腫疹、紅潮、浮腫)



b. 呼吸器症状
(呼吸困難、気道狭窄、喘鳴、低酸素血症)



c. 循環器症状
(血圧低下、意識障害)



d. 持続する消化器症状
(嘔吐・腹痛、嘔吐)

3. 当該患者におけるアレルゲンへの曝露後の急速な(数分~数時間以内)血圧低下。



収縮期血圧低下の定義：平常時血圧の70%未満または下記

生後1ヵ月~11ヵ月	< 70mmHg
1~10歳	< 70mmHg + (2×年齢)
11歳~成人	< 90mmHg

血圧低下

Simons FE, et al. WAO Journal 2011; 4: 13-37, Simons FE. J Allergy Clin Immunol 2010; 125: 5161-81, Simons FE, et al. アレルギー 2013; 62: 1464-500 を引用改変

アナフィラキシーガイドライン2022

総論

1 定義と診断基準

アナフィラキシーは重篤な全身性の過敏反応であり、通常は急速に発現し、死に至ることもある。重症のアナフィラキシーは、致死的に得る気道・呼吸・循環器症状により特徴づけられるが、典型的な皮膚症状や循環性ショックを伴わない場合もある。

■ 診断基準

以下の2つの基準のいずれかを満たす場合、アナフィラキシーである可能性が非常に高い。

1. 皮膚、粘膜、またはその両方の症状(全身性の蕁麻疹、腫疹または紅潮、口唇・舌・口蓋垂の腫脹など)が急速に(数分~数時間)で発症した場合。



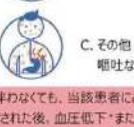
さらに、少なくとも次の1つを伴う



A. 気道/呼吸：重度の呼吸器症状
(呼吸困難、呼吸性喘鳴・気管支痙攣、吸気性喘鳴、PEF低下、低酸素血症など)



B. 循環器：血圧低下または臓器不全に伴う症状
(筋緊張低下【虚脱】、失神、失禁など)



C. その他：重度の消化器症状
(重度の痙攣性腹痛、反復性嘔吐など【特に食物以外のアレルゲンへの曝露後】)

2. 典型的な皮膚症状を伴わずとも、当該患者にとって既知のアレルゲンまたはアレルゲンの可能性がきわめて高いものに曝露された後、血圧低下・または気管支痙攣または喉頭症状*が急速に(数分~数時間)で発症した場合。

乳幼児・小児：
収縮期血圧が低い(年齢別の値との比較)、
または30%を超える収縮期血圧の低下*



成人：
収縮期血圧が90mmHg未満、または本人のベースライン値に比べて30%を超える収縮期血圧の低下





↓



図1 診断基準

* 血圧低下は、本人のベースライン値に比べて30%を超える収縮期血圧の低下でなければならない。または以下の場合と定義する。
 † 乳児および10歳以下の小児：収縮期血圧が (70 + [2 × 年齢(歳)]) mmHg未満
 ‡ 成人：収縮期血圧が90mmHg未満
 # 喉頭症状：吸気性喘鳴、圧声、声下落ちなど。

PEF (ピークフロー)：最大呼気流量
 ACE阻害薬 (Angiotensin Converting Enzyme Inhibitor)：アジチアタンソン製剤・カルシウム拮抗薬
 NSAIDs (Non-Steroidal Anti-Inflammatory Drugs)：非ステロイド性抗炎症薬

アナフィラキシーガイドライン2014

総 論

8 アナフィラキシーの重症度評価

- ▶ 下記表のグレード1(軽症)の症状が複数あるのみではアナフィラキシーとは判断しない。
- ▶ グレード3(重症)の症状を含む複数臓器の症状、グレード2以上の症状が複数ある場合はアナフィラキシーと診断する。
- ▶ 重症度(グレード)判定は、下記の表を参考として最も高い臓器症状によって行う。
- ▶ 重症度を適切に評価し、各臓器の重症度に応じた治療を行う。

■ 臨床所見による重症度分類

	グレード1 (軽症)	グレード2 (中等症)	グレード3 (重症)
皮膚・粘膜症状	紅斑・蕁麻疹・膨疹 腫痒 口唇、眼瞼腫脹 口腔内、咽頭遠 知感	部分的 軽い腫痒(自刺内) 部分的 顔全体の腫れ	全身性 強い腫痒(自刺外) 顔全体の腫れ 咽頭遠
消化器症状	腹痛 嘔吐・下痢	強い腹痛 嘔気、 単回の嘔吐・下痢	強い腹痛(自刺内) 持続する強い腹痛(自刺外) 繰り返す嘔吐・下痢
呼吸器症状	咳嗽、鼻汁、 鼻閉、くしゃみ 喘鳴、呼吸困難	間欠的な咳嗽、鼻汁、 鼻閉、くしゃみ 断続的な咳嗽 —	持続する強い咳嗽 断続的な咳嗽 明らかな喘鳴、呼吸困難、チアノーゼ、呼吸停止、 SpO ₂ ≤ 92%、締めつけられる感覚、 喘鳴、嚥下困難
循環器症状	脈拍、血圧	—	頻脈(+15回/分)、 血圧軽度低下、 蒼白 不整脈、血圧低下、 重度徐脈、心停止
神経症状	意識状態	元気がない	眩暈、軽度頭暈、 恐怖感 ぐったり、不穏、 失禁、意識消失

血圧低下：1歳未満<70mmHg、1~10歳<[70mmHg+(2×年齢)]、11歳~成人<90mmHg
血圧軽度低下：1歳未満<80mmHg、1~10歳<[80mmHg+(2×年齢)]、11歳~成人<100mmHg
福田紀之ほか：日本小児アレルギー学会誌 2014；29：201-10より引用

12

アナフィラキシーガイドライン2022

■ アナフィラキシーの重症度分類

- ▶ アナフィラキシーの重症度(グレード)判定は、下記の表を参考として最も高い重症度を示す臓器の重症度によって行う。
Yanagida N et al. Int Arch Allergy Immunol. 2017;172:173-82
- ▶ 重症度を適切に評価し、各臓器の重症度に応じた治療を行う。

表11 アナフィラキシーにより誘発される臓器症状の重症度分類

	グレード1 (軽症)	グレード2 (中等症)	グレード3 (重症)
皮膚・粘膜症状	紅斑・蕁麻疹・膨疹 腫痒	部分的 強い腫痒(自刺内)	全身性 強い腫痒(自刺外)
消化器症状	腹痛 嘔吐・下痢	強い腹痛 嘔気、 単回の嘔吐・下痢	強い腹痛(自刺内) 持続する強い腹痛(自刺外) 繰り返す嘔吐・下痢
呼吸器症状	咳嗽、鼻汁、 鼻閉、くしゃみ 喘鳴、呼吸困難	間欠的な咳嗽、鼻汁、 鼻閉、くしゃみ 断続的な咳嗽 —	持続する強い咳嗽 断続的な咳嗽 明らかな喘鳴、呼吸困難、 チアノーゼ、呼吸停止、 SpO ₂ ≤ 92%、締めつけられる感覚、 喘鳴、嚥下困難
循環器症状	脈拍、血圧	—	頻脈(+15回/分)、 血圧軽度低下、蒼白 不整脈、血圧低下、 重度徐脈、心停止
神経症状	意識状態	元気がない	眩暈、軽度頭暈、 恐怖感 ぐったり、不穏、 失禁、意識消失

血圧低下：
1歳未満 < 70mmHg
1~10歳 < [70 + (2×年齢)] mmHg
11歳~成人 < 90mmHg

血圧軽度低下：
1歳未満 < 80mmHg
1~10歳 < [80 + (2×年齢)] mmHg
11歳~成人 < 100mmHg

Yanagida N et al. Int Arch Allergy Immunol. 2017;172:173-82
福田紀之 他. 日本小児アレルギー学会誌. 2015;29:655-64

18

アナフィラキシーガイドライン2014

8 アナフィラキシーの重症度評価

- ▶ 下記表のグレード1(軽症)の症状が複数あるのみではアナフィラキシーとは判断しない。
- ▶ グレード3(重症)の症状を含む複数臓器の症状、グレード2以上の症状が複数ある場合はアナフィラキシーと診断する。
- ▶ 重症度(グレード)判定は、下記の表を参考として最も高い器管症状によって行う。
- ▶ 重症度を適切に評価し、各器管の重症度に応じた治療を行う。

■ 臨床所見による重症度分類

		グレード1 (軽症)	グレード2 (中等症)	グレード3 (重症)
皮膚・粘膜症状	紅斑・蕁麻疹・膨疹	部分的	全身性	←
	掻痒	軽い掻痒(自制内)	強い掻痒(自制外)	←
	口唇、眼瞼腫脹	部分的	顔全体の腫れ	←
消化器症状	口腔内、咽頭違和感	口、のどのかゆみ、違和感	咽頭痛	←
	腹痛	弱い腹痛	強い腹痛(自制内)	持続する強い腹痛(自制外)
	嘔吐・下痢	嘔気、単回の嘔吐・下痢	複数回の嘔吐・下痢	繰り返す嘔吐・便失禁
呼吸器症状	咳嗽、鼻汁、鼻閉、くしゃみ	間欠的な咳嗽、鼻汁、鼻閉、くしゃみ	断続的な咳嗽	持続する強い咳き込み、犬吠様咳嗽
	喘鳴、呼吸困難	—	聴診上の喘鳴、軽い息苦しさ	明らかな喘鳴、呼吸困難、チアノーゼ、呼吸停止、SpO ₂ ≤ 92%、締めつけられる感覚、嘔声、嚥下困難
循環器症状	脈拍、血圧	—	頻脈(+15回/分)、血圧軽度低下、蒼白	不整脈、血圧低下、重度徐脈、心停止
神経症状	意識状態	元気がない	眠気、軽度頭痛、恐怖感	ぐったり、不穏、失禁、意識消失

血圧低下 : 1歳未満 < 70mmHg, 1~10歳 < [70mmHg + (2×年齢)], 11歳~成人 < 90mmHg
 血圧軽度低下: 1歳未満 < 80mmHg, 1~10歳 < [80mmHg + (2×年齢)], 11歳~成人 < 100mmHg

柳田紀之ほか: 日本小児アレルギー学会誌 2014; 28: 201-10より引用

アナフィラキシーガイドライン2022

■ アナフィラキシーの重症度分類

- アナフィラキシーの重症度(グレード)判定は、下記の表を参考として最も高い重症度を示す器管の重症度によって行う。
Yanagida N et al. Int Arch Allergy Immunol. 2017;172:173-82
- 重症度を適切に評価し、各器管の重症度に応じた治療を行う。

表11 アナフィラキシーにより誘発される器管症状の重症度分類

		グレード1 (軽症)	グレード2 (中等症)	グレード3 (重症)
皮膚・粘膜症状	紅斑・蕁麻疹・膨疹	部分的	全身性	←
	掻痒	軽い掻痒(自制内)	掻痒(自制外)	←
	口唇、眼瞼腫脹	部分的	顔全体の腫れ	←
消化器症状	口腔内、咽頭違和感	口、のどのかゆみ、違和感	咽頭痛	←
	腹痛	弱い腹痛	強い腹痛(自制内)	持続する強い腹痛(自制外)
	嘔吐・下痢	嘔気、単回の嘔吐・下痢	複数回の嘔吐・下痢	繰り返す嘔吐・便失禁
呼吸器症状	咳嗽、鼻汁、鼻閉、くしゃみ	間欠的な咳嗽、鼻汁、鼻閉、くしゃみ	断続的な咳嗽	持続する強い咳き込み、犬吠様咳嗽
	喘鳴、呼吸困難	—	聴診上の喘鳴、軽い息苦しさ	明らかな喘鳴、呼吸困難、チアノーゼ、呼吸停止、SpO ₂ ≤ 92%、締めつけられる感覚、嘔声、嚥下困難
循環器症状	頻脈、血圧	—	頻脈(+15回/分)、血圧軽度低下、蒼白	不整脈、血圧低下、重度徐脈、心停止
神経症状	意識状態	元気がない	眠気、軽度頭痛、恐怖感	ぐったり、不穏、失禁、意識消失

血圧低下 : 1歳未満 < 70mmHg, 1~10歳 < [70 + (2×年齢)] mmHg, 11歳~成人 < 90mmHg
 血圧軽度低下: 1歳未満 < 80mmHg, 1~10歳 < [80 + (2×年齢)] mmHg, 11歳~成人 < 100mmHg

Yanagida N et al. Int Arch Allergy Immunol. 2017;172:173-82
 柳田紀之 他. 日本小児アレルギー学会誌. 2015;29:655-64

アナフィラキシーガイドライン2022
 では、削除された。